

## トルコの新型コロナウイルス感染症の状況 (14)

トルコでは新型コロナウイルス感染症の1日あたりの感染者数が2020年12月初旬の3万人強から2021年2月に1万人程度に減少するなど感染の収束が見られたことに加え、2月半ばより中国製ワクチンの接種を医療従事者、及び重症化リスクの高い高齢者を優先して行ったため、3月以降は各県の感染状況による規制緩和を行った。しかし、4月に入ると変異株による感染が再拡大したため、4/13からラマザンが終わる5月半ばまでの時限的措置として、週末の外出やモスクでの集団礼拝を禁止、平日夜間の外出禁止の2時間延長、娯楽施設やスポーツ施設の閉鎖等の措置をとった。それでも感染拡大は収まらず、4/16には新型コロナの感染者が最多の6.3万人を記録。感染拡大を受け、エルドアン大統領は1日の感染者数を5千人程度に減少させる必要があること、ワクチン接種が進み徐々に経済活動を通常化している欧州諸国から後れをとらぬよう、また、教育面でも支障が出ぬよう今は全国民が一丸となり感染抑制の努力をする時であると強く呼びかけを行い、4/29より断食後の宗教祭日(砂糖祭)終了の5/17まで全土でロックダウンを実施すると発表した。

今回のロックダウンの内容は内務省のHPに詳細に記されている。国民の外出は必要最低限にし、徒歩圏のみの移動が許可される(身障者を除く)。生活必需品及び医薬品を取り扱う店舗以外の事業所は原則として閉鎖、通常の業務が認められるのは、公務員、医療、製造業、運送運輸業、農業、林業、畜産業、小売業等に従事するエッセンシャル・ワーカー等に限定される。学校教育はオンラインのみとなる。マーケット、八百屋、精肉店、乾物屋、パン屋、製菓店等は10-17時には営業可で、国民は必要な場合のみ外出し、身分証記載の住所から最寄りの店舗で買い物をすることができる。アルコールの販売は全面的に禁止された。飲食店はデリバリーとテイクアウトのみとする。花屋は母の日にかかる週末のみ営業可。また、特別な事情がない限りは県をまたぐ移動は禁止され、必要な場合は許可を取得する必要がある。行動制限の違反者には罰則規定がある(野良猫や野良犬の餌やりは可)。

今回非常に厳しい措置が取られたのは、夏の旅行シーズンに海外から旅行者を迎え経済を好転させたいという狙いがある。米国のジョンズ・ホプキンス大学によると、5/11時点のトルコの感染者数は504万人で世界5位、死者数は43,311人で18位。5/1には1日の死者が373人と最多を記録した。のロックダウンの効果は徐々に始まっており、4月は1日あたりの新規感染者数が4~6万人で推移していたが5月以降は2万人台に、5/11現在は1万人台に減少している。

尚、トルコでは医療従事者、高齢者、観光業関係者を優先して、在留許可を持つ外国人を含めワクチン接種が進んでおり、5/11時点で2500万人以上が接種し、うち、1000万人以上が2度目の接種を済ませた。国民は5/18以降のロックダウン期間が終了後の施策に関心を寄せている。

## 県別の感染状況 (出所: Haberturk)



2021年3月13~19日



2021年4月17~23日

青: 低リスク(10万人当たり10人未満)
黄: 中リスク(同 11~35人)
橙: 高リスク(同 36~100人)
赤: 最高リスク(同 100人以上)